



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

8月号—No.292

2019.7.25

(毎月1回25日発行)

【柚葉色(ゆずはいろ)】濃く暗い緑色。

文字どおり、柚の葉の色に由来する色名。「ゆばいろ」とも読む。柚
といえば、黄色い果実や香りをイメージするが、葉も大きな葉の下
に小さな翼葉をもつ独特の形をしていておもしろい。葉も香りを楽
しむことができ、お茶や料理の飾りとしても用いられる。

●目次/contents

今月のニュース..... 2

令和2(2020)年度助成要綱決定

令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業・支援事業」

事業の枠組みを変更/令和2(2020)年度実施団体募集/2020・2021年度お
んかつ登録アーティスト決定

ステージラボ富士見セッション報告

財団からのお知らせ..... 8

令和2(2020)年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」
実施団体募集/令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化政令指定都
市アウトリーチセミナー事業」実施団体募集/令和元(2019)年度「公共
ホール演劇ネットワーク事業」実施中/理事会、評議員会の開催結果

今月の情報..... 9

地域通信

今月のレポート..... 12

東京都板橋区 板橋区立美術館40周年記念・リニューアルオープン記念
「2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

●令和元(2019)年9月30日(月)まで申請受け付け

令和2(2020)年度助成要綱が決定

令和2(2020)年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上および公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

募集締切：令和元(2019)年9月30日(月)

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる事業(最大3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の

企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の事業。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

[2]連携プログラム

地方公共団体等が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体等が連携して共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを旨とする実践的な人材育成事業(1年間)。

[4]公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役

●助成要綱および申請書類等は、当財団のウェブサイト「様式箱」→「地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」に掲載しています。
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>
※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等のとりまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ
総務部 西山
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ
総務部 宮下
Tel. 03-5573-4056

事業名		分野	事業実施者			
			地方公共団体			指定管
			都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定 管理者(※) 注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム (一般分)	音楽 演劇 ダンス 伝統芸能 美術 等	○	○	○	○
	創造プログラム (企画制作力向上特別分)				×	都道府県・政令指定
	[2]連携プログラム				○	○
	連絡調整事業					
	[3]研修プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
	[1]地方フェスティバル事業	地域伝統芸能等	○	○	○	○
	[2]映像記録保存事業		×	○	○	×
	[3]保存・継承活動支援事業					

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

割と、それを実現するための方策を登載した計画を策定する事業。

●地域伝統芸能等保存事業

[1] 地方フェスティバル事業

地方公共団体等が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業。

[2] 映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、かつ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業。

[3] 保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業。

(参考)平成31(2019)年度
「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	84	74
創造プログラム (企画制作力向上特別分)	24	20
連携プログラム	29	29
研修プログラム	18	18
活性化計画プログラム	0	0
合計	155	141

(参考)平成31(2019)年度
「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	9	9
映像記録保存事業	11	9
保存・継承活動支援事業	19	19
合計	39	37

			会場	助成措置			申請 期限	
理者	特定公益 法人(※) 注1	実行委員会等 注3		助成率	助成の上限額 (1年ごと1団体ごとの 金額)	対象期間		
○	○	○	原則として、当該申請団 体の区域内に所在する 公立文化施設	1／2以内	1,000万円	2年 もしくは3年	令和元（2019）年9月30日（月）必着	
都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○						1年間		
○	○	○		2／3以内	500万円 ※連携する事業全体で 3,000万円	1年間		
					100万円	事業前年 1年間		
				2／3以内	200万円	1年間		
2／3以内	200万円	2年以内						
○	○	○ (保存会も含む)		原則として、当該申請団 体の区域内に所在する 公立文化施設	1／2以内	都道府県等：200万円 市区町村等：50万円		1年間
×	×	×						
×	×	×	2／3以内		200万円			
				1／2以内	30万円			

左表脚注

※
特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1
設置者である地方公共団体の長の副申書を添付

注2
設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成

注3
地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額を助成対象

新たな仕組みによるおんかつ事業の募集開始

令和2(2020)年度
公共ホール
音楽活性化事業・
支援事業

●事業の枠組みを変更～わかりやすくシンプルな事業体系および対象経費の拡大により柔軟な事業展開が可能に～

公共ホール音楽活性化事業(通称:おんかつ)は平成10(1998)年度より昨年度までの21年間で延べ370団体が実施してきました。その間、公共ホール音楽活性化支援事業(通称:おんかつ支援)に加え、発展継続事業、発展継続支援事業、文化庁連携事業など、さまざまな事業展開をしてきましたが、現行のおんかつ事業およびおんかつ支援事業等を見直し、令和2(2020)年度以降新たな枠組みで事業を実施します。仕組みをわかりやすくシンプルなものとするとともに、対象団体および対象経費を拡大することで、実施団体においては現行の仕組みよりも柔軟な事業展開が可能となります。また、過去に当該事業を実施した団体も一定の条件のもとで改めて参加できるようになりました。

◎公共ホール音楽活性化事業[導入プログラム]

現行のおんかつ事業から事業内容の変更はありませんが、おんかつ未実施の市町村等に加えて、管理運営者の変更や同一団体内での担当者の変更によるノウハウの蓄積が失われてしまった経験市町村等でも、一定の条件を

満たせば実施可能となります。

◎公共ホール音楽活性化支援事業[支援プログラム]

現行のおんかつ支援事業、発展継続事業、発展継続支援事業、文化庁連携事業を一本化し、原則として最大5カ年までに限り実施可能となります。助成対象経費を上限100万円とし、地域交流プログラムのアクティビティに加えて公演に係る直接経費も対象となり、1年目は2/3、2年目以降は1/2(従来は1/3)を支援します。対象団体は、これまでの経験団体となりますが、過去の実績や提出いただく計画書から判断し、予算の範囲内で選定します。また支援プログラムに申請した場合でも、実施状況によっては導入プログラムからの実施を推奨することもあります。

●令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業・支援事業」実施団体募集

新たな仕組みによる公共ホール音楽活性化事業・支援事業の実施団体を募集します。公共ホールの利活用の促進やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりにぜひ活用ください。概要については、下記表でご確認ください。

募集締切:9月20日(金) 必着

●各事業の実施要綱および申込書等は、当財団のウェブサイト「様式箱」→「公共ホール音楽活性化事業」各事業に掲載します。
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

◎「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」に関する問い合わせ
芸術環境部 永田
Tel. 03-5573-4069
onkatsu@jafra.or.jp

◎「公共ホール音楽活性化支援事業(支援プログラム)」に関する問い合わせ
芸術環境部 波辺
Tel. 03-5573-4185

	事業内容	対象団体 ^(*)	実施内容	
			公演	地域交流プログラム
公共ホール音楽活性化事業 「導入プログラム」	おんかつの導入プログラムとしておんかつ未実施の団体を対象に実施。アーティスト、コーディネーター派遣によりノウハウの提供とその蓄積に注力。さらにアウトリーチをその地域としてどのような位置づけとするかなど、アウトリーチ事業の導入として実施する団体向け。	おんかつ経験:なし ※経験団体等でも一定の条件を満たせば可	コンサート:1回 (公共ホールで開催する有料のクラシック音楽コンサート)	地域との交流を図るアクティビティ:4回 ※1日につき2回 (学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど)
公共ホール音楽活性化支援事業 「支援プログラム」	導入プログラムのフォローアップ事業として実施。導入プログラムを実施したホールがアウトリーチ事業の定着を目指し実施するプログラムに対して行う財政的な支援。今後アウトリーチを積極的に展開していく足掛かりとする団体向け。	おんかつ経験:あり ※過去の支援事業(発展継続、発展継続支援、文化庁連携含む)経験団体等も実施可 ※過去10年以内におんかつや地域創造の他分野のプログラムを実施していることが望ましい	コンサート:1回	地域との交流を図るアクティビティ:4回以上

*いずれのプログラムも、市町村(特別区を含み、政令指定都市を除く)と、市町村の公共ホール指定管理者等。

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

2020・2021年度「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」登録アーティストが決定しました



● 齊藤 一也 (さいとう かずや) [ピアノ]

1990年山梨県生まれ。東京藝術大学附属高校、同大学を経て、パリ国立高等音楽院ピアノ科第一課程、第二課程を最高成績で修了。現在ベルリン芸術大学ソリスト科修士課程に在籍中。東京音楽コンクール最高位、日本音楽コンクール第2位をはじめ、カンピージョス、マッサローザ国際コンクールなどで優勝。また、ロン・ティボー、マリアカナルス、サンタンデルなどの著名な国際コンクールでも入賞している。



● 石上 真由子 (いしがみ まゆこ) [ヴァイオリン]

日本音楽コンクールなど、国内外のコンクールで優勝・受賞。海外の音楽祭にも多数出演。長岡京室内アンサンブル、アンサンブル九条山メンバー。Ensemble Amoibeシリーズ主宰。MusicDialogueアーティスト。CHANEL PygmalionDays室内楽アーティスト。京都コンサートホール登録アーティスト。日本コロムビアよりCD「ヤナーチェク:ヴァイオリン・ソナタ」好評発売中。



● 梅津 碧 (うめつ みどり) [ソプラノ]

山形県出身。青山学院大学英米文学科卒業。東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業。ウィーン、プライナー音楽院を首席で修了。ウィーン国立音楽大学オペラ科に在籍。シェーンブルン劇場『魔笛』(夜の女王)、日生劇場『魔笛』(パパゲーナ)、東京オペラ・プロデュース『ロメオとジュリエット』(ジュリエット)ほか、国内外にて数々のオペラ、コンサートに出演。高い歌唱力と自然な演技で好評を博する。



● 竹多 倫子 (たけだ みちこ) [ソプラノ]

第47回日伊声楽コンクール第1位および歌曲賞受賞。第82回日本音楽コンクール第1位および岩谷賞受賞。伊・オルヴィエート第20回国際声楽コンクール『蝶々夫人』部門、蝶々夫人役で優勝。2015年伊・マンチネリ歌劇場『蝶々夫人』蝶々夫人役、2017年日生劇場・オペラ『ルサルカ』ルサルカ役等出演。平成26年度文化庁新進芸術家海外研修生。平成29年度第28回五島文化財団オペラ新人賞受賞。

● 新野 将之 (にいの まさゆき) [打楽器]



国立音楽大学卒業。イタリア国際打楽器コンクール、チェジュ国際金管打楽器コンクール、日本国際打楽器コンクールにて最高位を受賞。クラシック音楽に留まらず、パントマイムや朗読を取り入れた多彩なパフォーマンスを展開しており、テレビ等のメディアにも出演している。米国ハニーロック社から自作曲を出版しているほか、海外のコンクールにて審査員を務めるなど国際的に評価されている。

● 實川 風 (じつかわ かおる)・高橋 ドレミ (たかはし どれみ) [ピアノデュオ]



2人のソリストによるピアノデュオ。それぞれの高度な技術とアンサンブルの経験を活かし、室内楽としての4手連弾・2台ピアノ作品の魅力を追究している。“ピアノデュオのイメージが変わった”“オーケストラのように立体的に聴こえてくる”など、各地での演奏会にて好評を博している。

対象アーティスト	コーディネーター	地域創造による経費負担・支援内容		注意点	現行からの変更によるポイント
おんかつ登録アーティスト ※2020・2021年登録アーティストは上記6組	派遣あり	- アーティスト派遣経費(出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等) - 地域交流プログラムに係る経費(主にピアノ調律費:10万円限度) - コーディネーターの派遣 - 全体研修会(事業実施に必要なノウハウ等の研修)および個別研修(現地下見)の実施		- 担当職員の全体研修会への参加が必須 - 公演および地域交流プログラムは、3日間の連続した日程で実施	- 名称を公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)とする 1市町村につき1施設の採択に制限せず、施設ごとの申請、採択も可能とする(ただし、同一団体が管理している場合は不可)。 2度目の実施も可能とする(要問合せ) - 事業内容の変更はなし
おんかつ支援登録アーティスト ※当財団ウェブサイトからご覧いただけます。 http://www.jafra.or.jp/jinzai/support/index.php	派遣なし	1年目 対象経費の2/3を負担 (対象経費上限100万円)	2年目以降 対象経費の1/2を負担 (対象経費上限100万円)	- 原則5カ年まで実施可 →<u>予算の範囲内で過去の実績と企画書の内容から選定</u> - 必要に応じてコンサートと地域交流プログラムのアクティビティを分離可能	- 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)・発展継続事業・発展継続支援事業・文化庁連携事業を一本化 2年目以降の実施に対し、対象経費の1/2を負担(従来は1/3) - 広報費・舞台費等公演に係る経費も支援対象

●ステージラボ富士見セッション

公立ホールでの経験豊富なアーティストがコーディネート

ステージラボ 富士見セッション 報告

2019年6月25日～28日



令和最初のステージラボは、全国に先駆けて芸術監督制を採用し、平成19(2007)年度には地域創造大賞も受賞している富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ(2002年開館)を会場に開催されました。ホール入門コースと自主事業コースの2コースで、公立ホールでの経験豊富なアーティストがコーディネーターを務めました。

●参加者の“面白い”を深掘りする ～ホール入門コース

ホール入門のコーディネーターは、公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト(2004・2005年度)をきっかけに、15年にわたり全国の公立ホールとさまざまな事業を展開してきたBLACK BOTTOM BRASS BAND(BBBB)のリーダー、トロンボーン奏者のヤッシーさんです。「各地の公立ホールで仕事をして思うのは、大変なことがあっても人生を面白がっている人と仕事するのは楽しいということ。まずは遊んで、心の奥にあるそれぞれの面白いという気持ちを深掘りし、それを躍動(スイング)させるようなプログラムを考えたとヤッシーさん。

ホールの先輩職員である田澤拓朗さん(上田市交流文化芸術センター)による入門講座

の後、ヤッシーさんによるイメージトレーニング(身体にいい空気を入れて身体を開き、スイングを楽しむ)やBBBBによるカーニバルのようなアウトリーチ体験、そして同じく登録アーティストのピアニスト・白石光隆さんによる目からウロコのワークショップが行われました。

白石さんは、楽器を理解するためのピアノ解体ショーなどを行った後、演奏家の身体性について知るワークを展開。「ピアノのような楽器は西洋人に使いやすくできている。例えば農作業では、日本人はクワを手前に引くときにリズムがあるが、西洋人はスコップを土に立てるときにリズムがある。歩行では、日本人は足を下げるとき、西洋人は足を上げるときにリズムを感じる。ピアノを弾くには西洋人のようなリズムにならないといけない」という説明の後、みんなで歩きながらリズムの違いを体感しました。

このほか、面白さのみ追求した企画・15人以下の参加者を想定した小規模企画をグループごとに考えるワークショップでは、離島をアーティストと一緒に青色に染める「青フェス」「方言ラップ」、アーティストがあえて落とした物を捜す「落とされ物」など、参加者の想像力がスイングしたおもしろ企画が目白押しで、とても楽しい発表会になりました。

写真

左上: ホール入門コース「アウトリーチを体験しよう」(BLACK BOTTOM BRASS BAND(BBBB)によるアウトリーチ体験)

右上: 自主事業コース「自己紹介、意識共有」(多田淳之介さんの講義)

左下: 自主事業コース「地域のプログラムを考えるWS②～地域を見る～」(多田さん、泊篤志さん、白神ももこさんと近隣の難波田城公園を散策)

右下: 共通プログラム「本気の文化による街作り」(平田オリザさんの講義)

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース

ヤッシー(トロンボーン奏者/BLACK BOTTOM BRASS BAND(BBBB)リーダー)

◎自主事業コース

多田淳之介(演出家/東京デスロック主宰/前富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●地域のホール運営に携わるアーティストが講師～自主事業コース

自主事業コースのコーディネーターは、昨年度までキラリ☆ふじみの第3代芸術監督を務めていた演出家の多田淳之介さんです。講師には、松井憲太郎キラリ☆ふじみ館長のほか、第4代芸術監督を共同で務める劇作家・演出家の田上豊さんとダンサー・振付家の白神ももこさんに加え、北九州芸術劇場ローカルディレクターの泊篤志さんという地域のホール運営に携わっているアーティストを配置。参加者たちはタイプの違うアーティストとじっくり交流しました。

多田さんは、「僕目線だけでなく、田上、白神、館長の4者4様の見方があることを感じてもらいたかった。地域のホールの芸術監督を務めて、僕は劇場での公演と劇場の外で起きていることを同等にとらえられるようになった。アーティストと地域をマッチングするのがホールの仕事だということを参加者に伝えたかった。アーティストとホールは一緒に育っていくものであり、その両輪が上手く回ればお互いに成長できる希望がある」と話していました。

なかでも面白かったのが、北九州の学生演劇から始まった演劇と劇場にまつわる半生を職業人の歩みとして振り返った泊さんの講義です。東京でのサラリーマン生活を経てUターン。「飛ぶ劇場」の劇作家・演出家として演劇活動を再開するとともに、演劇祭事務局で臨時職員、劇場開設プレイベント事務局で嘱託職員、北九州芸術劇場学芸係で専門嘱託などを務め、その中で他ジャンルとコラボした創作やワークショップ、バックステージツアー、リーディング、高校演劇、演劇人育成、アウトリーチ、市民参加劇、まちなかイベントなどを経験してきました。泊さんは、「地域で演劇を続けるというのは離島の医者みたいなもので、何でも屋であることが求められる。劇場の仕事のひとつは地元演劇人といろいろな人を出会わせること。そこに面白いことが生まれる可能性がある」と話していました。

●平田オリザの挑戦～共通プログラム

共通プログラムでは、キラリ☆ふじみの初代

芸術監督であり、その後もアドバイザーとして長く関わっている平田オリザさんを講師に迎えました。平田さんをご存じのとおり、演劇人として地域の文化によるまちづくりを推進してきたフロントランナー。今年度中に主宰する劇団「青年団」の拠点を自らが文化政策担当参与を務める豊岡市に移転し、2021年4月に開校予定の演劇による人材育成を行う兵庫県立「国際観光芸術専門職大学(仮称)」の学長に就任する予定です。

2時間にわたる講演は、人口減少社会への問いかけから始まり、富士見市の取り組み、豊岡市の演劇による小中学校教育改革など多岐にわたりました。特に時間を割いて解説されていたのが、2020年から始まる大学入試改革です。「2021年春から行われる大学入学共通テストで『知識・技能』『思考力・判断力・表現力』に加え、『主体性・多様性・協働性』が評価されるようになる。インターネットの時代には知識(認知スキル)ではなく、学ぶ力、議論する力(非認知スキル)が問われるようになる」と言い、こうした力を養うための演劇による教育改革について力説されていました。最新情報満載の講義に、ホール入門コースでは早速「平田オリザを振り返る」という時間が設けられるほど刺激的な講義となりました。



上：ホール入門コース「音楽体験ワークショップ」(ヤッシーさんの講義)
下：ホール入門コース「白石光隆を体験しよう」(白石さんのピアノ解体ショー)

ステージラボ富士見セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース
6月25日	開講式／オリエンテーション・施設見学等	
	「さあ、はじめましょう! Let's Swing!」 ヤッシー	「自己紹介、意識共有」 多田淳之介
	全体交流会	
6月26日	「ホールの仕事について／入門編」 田澤拓朗	「演劇にできること」 田上豊
	「音楽体験ワークショップ」 ヤッシー、田澤拓朗	「コンテンポラリーダンスにできること」 白神ももこ
	「地域の中のホール～まちがスウィングし始める～」 田澤拓朗	「地域の劇場にできること」 泊篤志
	共通プログラム「本気の文化による街作り」 平田オリザ	
6月27日	「アウトリーチを体験しよう」 BLACK BOTTOM BRASS BAND	「地域のプログラムを考えるWS①～地域を知る～」 松井憲太郎
	「おもしろ企画・超小規模企画・夢企画」 ヤッシー、田澤拓朗	「地域のプログラムを考えるWS②～地域を見る～」 多田淳之介、田上豊、白神ももこ、泊篤志
	「白石光隆を体験しよう」 白石光隆	「地域のプログラムを考えるWS③～企画を立てる～」 多田淳之介、田上豊、白神ももこ、泊篤志
6月28日	「おもしろ企画・超小規模企画・夢企画」 ヤッシー、田澤拓朗	
	「企画発表&ディスカッション Let's Swing」 ヤッシー、田澤拓朗	「地域のプログラムを考えるWS④～自分の地域を考える～」 多田淳之介
	修了式	

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●各事業の実施要綱および申込書等は当財団のウェブサイト「様式箱」に掲載しています。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box>

●「公共ホール現代ダンス活性化支援事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 菅

Tel. 03-5573-4075

E-mail: dankatsu@jafra.or.jp

●「公共ホール音楽活性化事業政令指定都市アウトリーチセミナー事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 仕田

Tel. 03-5573-4078

●令和元(2019)年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」『めにみえない みにみにしたい』(作・演出:藤田貴大)

◎会場・日程(各会場とも初日に地域交流プログラムを実施)

●彩の国さいたま芸術劇場:7月7日、13日～15日

●富良野演劇工場:8月2日、3日

●あさひサンライズホール:8月4日、5日

●だて歴史の杜カルチャーセンター:
8月7日、8日

●札幌文化芸術劇場:8月9日～11日

●久留米シティプラザ:8月14日、15日

●福岡市民会館:8月16日～18日

●熊本県立劇場:8月19日～21日

●東松山市民文化センター:8月23日、24日

◎問い合わせ

芸術環境部 山本

Tel. 03-5573-4079

●理事会、評議員会の開催結果

6月6日に第124回理事会、6月21日に第87回評議員会が開催され、平成30(2018)年度決算、事業報告および公益目的支出計画実施報告が承認されました。

※財務諸表および事業報告等は当財団ウェブサイトに掲載

<http://www.jafra.or.jp/j/about/summary/index.php>

●令和2(2020)年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

募集締切:9月10日(火)必着

◎対象団体

●ダン活のAプログラム(地域交流プログラム)、Bプログラム(市民参加作品創作プログラム)、Cプログラム(公演プログラム)のすべてを実施した地方公共団体等

●ダン活のAプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラムを実施した地方公共団体等

◎対象アーティスト

公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト(22組)

◎支援内容

以下の①②に係る経費の1/2以内の額を1年間のみ助成します。

①対象アーティスト等派遣経費

対象アーティスト、アシスタント、テクニカルスタッフ等の出演料等(助成対象上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料

②公演負担金

公演実施に係る経費(助成対象上限あり)

※助成上限額等の詳細については要綱をご確認ください。

●令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」実施団体募集

この事業は、音楽アウトリーチのノウハウを政令指定都市等に普及することを目的として、政令指定都市等との共催により、公共ホール等を拠点とした音楽の演奏家による地域交流プログラムに関する研修会等を実施します。地域でアウトリーチを担う人材の育成や、公共ホール関係者のネットワークづくりを支援します。

募集締切:9月20日(金)必着

◎対象団体

①政令指定都市

②政令指定都市の公共ホールの指定管理者等

◎事業内容

①研修会プログラムの策定

地域創造が派遣するアドバイザーと共同し研修会プログラムを策定する

②研修会等の開催

当該市内および周辺市町村の公共ホール職員、文化行政担当者、教育関係者およびアーティスト等を対象とした、地域交流プログラム並びに文化・芸術による地域づくりに関する研修会等を開催する。

◎経費負担・支援内容

●アドバイザー等の派遣

●講師の派遣

●研修会等に係る対象経費(30万円を限度)

※詳細は実施要綱等をご覧ください。

●令和元(2019)年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」実施中

複数の公共ホールが共同して演劇作品の上演とワークショップなど地域交流プログラムを行う「公共ホール演劇ネットワーク事業」。今年度は9つの公共ホールで『めにみえない みにみにしたい』が上演されます。

この作品は、次代の演劇界を担う人材として注目を集める演劇作家・藤田貴大さんが作・演出を手掛け、子どもから大人まで一緒に楽しめる作品となっています。演劇ならではの見立て、しりとりやじゃんけんといったゲーム要素、しゃぼん玉などを使った視覚効果など、多様な手法で子どもたちの観劇の敷居を下げる一方、少女の成長や自立、戦争というモチーフにも挑み、子どもはもちろん大人の鑑賞にも堪える作品として2018年の初演では高い評価を得ました。

地域交流プログラムは、「今朝、最初に話した

人は?」「会場までの道のりは?」など藤田さんが参加者に向けてインタビューをしながら、全員でそれぞれの風景を再現していきます。最後には、再現されたシーンを藤田さんが構成し、みんなで小さな演劇作品を発表します。



藤田貴大さんによる小学生を対象にしたワークショップを実施
(写真提供:彩の国さいたま芸術劇場)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 児島・三田

●2019年10月号情報締切

8月29日(木)

●2019年10月号掲載対象情報

2019年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎公共ホール等の求人情報
- ◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●北海道鹿追町

神田日勝記念美術館
〒081-0292 河東郡鹿追町東町3-2
Tel. 0156-66-1555 川岸真由子
<http://kandanissho.com/>

しずくの中の神田日勝

2020年の画家・神田日勝没後50年に向けたイベントとして開催される日勝作品と道内アーティストのコラボレーション企画展。第1弾には「しずく写真」で注目を浴びる北海道帯広市在住の写真家・浅井美紀を紹介。しずくの中に日勝作品を閉じ込めた全12点の新作写真とそのモチーフになった日勝作品を中心に展示される。

[日程] 6月26日～9月1日

[会場] 神田日勝記念美術館

●岩手県大船渡市

大船渡市民文化会館リラスホール
〒022-0003 大船渡市盛町字下館下18-1
Tel. 0192-26-4478 谷川徹也
<https://www.city.ofunato.iwate.jp/site/riash-lib/>

劇団壱劇屋公演

『リラスホールダンジョン』

関西を中心に活躍する劇団壱劇屋が、地域の名勝地である「穴通磯」や三陸の海などの自然をモチーフに設計されたリラスホールをダンジョン(迷路)に見立て、俳優たちと一緒に巡る「ツアー型演劇」を上演する。6月に現地滞在を行い、リラスホールに合わせた公演に仕上げた。

[日程] 8月11日、12日

[会場] 大船渡市民文化会館リラスホール

●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加

<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

若手アーティスト支援プログラム Voyage 阿部明子・是恒さくら展「闊ーいきーを編む」

地元ゆかりのある若手アーティストに多様な表現の機会を設け、新たなステップを提供するプログラム。今回は、写真のレイヤーを重ねることで日常の風景を“編む”阿部明子と、人と自然の関係を本や刺繍として“編む”是恒さくらが公募により選出された。制作を通して、豊かな視点で物ごとの本質や真実を見つめる、2名のアーティストによる展覧会。

[日程] 7月6日～8月25日

[会場] 塩竈市杉村惇美術館

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6
Tel. 0246-22-8111 大伍綾子
<http://iwaki-alios.jp/>

第23回 たんけんアリオス

大人気の子ども向けボックスステージツアー。普段入れない舞台の裏側を“たんけん”できただけでなく、本物のお芝居をつくり上げながら舞台スタッフの仕事“たいけん”できる。今回は、名作絵本を原作に、大信ペリカンの脚本・構成・演出で好評を博した『すてきな三にんぐみ』を4年ぶりに再演。地方の高校生らが役者となり、参加者と共に物語をつくり上げる。

[日程] 7月28日

[会場] いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場



『すてきな三にんぐみ』(第15回 たんけんアリオス/2015年)

関東

●群馬県太田市

太田市文化スポーツ振興財団
〒373-0026 太田市東本町16-30
Tel. 0276-55-3036 小金沢智
<http://www.artmuseumlibraryota.jp/>

本と美術の展覧会 vol.3

佐藤直樹展:紙面・壁画・循環

美術館と図書館の複合施設である同館が継続実施している企画展シリーズ。今回は書籍を中心とするデザイナーで、2010年代からは精力的に木炭壁画を描き始めた佐藤直樹の個展を通し、本と美術の関連性を問う。これまで手掛けた書籍等のデザインの仕事を約20メートルにわたるスロープの壁面で紹介するほか、絵画作品では同地に通いながら描かれた部分も新たに発表する。

[日程] 6月29日～10月20日

[会場] 太田市美術館・図書館



展覧会会場風景(3F) 撮影:古江淳

●さいたま市

埼玉県立近代美術館
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1
Tel. 048-824-0111 大浦・鳴原
<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

MAY I START? 計良宏文の越境するヘアメイク展

今注目のヘアメイクアップアーティスト・計良宏文の仕事を通して、ヘアメイクの現在と可能性を新たな視点からとらえる展覧会。宣伝広告などの仕事から従来のヘアメイクの枠を越える挑戦的な仕事まで、計良のクリエイションの全貌を紹介。

ファッションデザイナー・坂部三樹郎との共作による大規模な映像インスタレーションも展示されている。

[日程] 7月6日～9月1日

[会場] 埼玉県立近代美術館



計良宏文×勅使河原城一《Flowers》
(2019年)

●埼玉県川口市

川口市立アートギャラリー・アトリア

〒332-0033 川口市並木元町1-76

Tel. 048-253-0222 秋田美緒

<http://www.atlia.jp/>

新鋭作家展 第8回優秀者

上坂直、蓮沼昌宏

「あ、これ、ウチのことです。」

文化芸術の振興と新鋭作家の発掘・育成を目的に開催している企画公募「新鋭作家展」の第8回優秀者2名による新作展。作家自ら地域に出向いて取材し、住人の「ウチ」(自分とその周囲のこと)をミニチュアやパラパラ漫画などの手法により作品に。ウチとは本当はどんなものか、ウチと言えるのはどこまでか、暮らしを振り返るきっかけにもなり得る。

[日程] 7月13日～8月25日

[会場] 川口市立アートギャラリー・アトリア

●東京都町田市



町田市立国際版画美術館

〒194-0013 町田市原町田4-28-1

Tel. 042-726-2771 町村悠香

<http://hanga-museum.jp/>

インプリントまちだ展2019

2020年の東京オリンピック・パ

ラリンピックに向けた若手作家による展覧会シリーズ第3弾として、自然と人の関わりを表現する版画家・田中彰の個展を開催。伐採予定だったエゴノキを掘り起こし、切り出した版木に木と町田の人々の記憶を描く。館内では滞在制作を行い、来館者と共に本展タイトルにちなむ「町田芹ヶ谷えごのき縁起絵巻」を制作予定。

[日程] 7月6日～9月23日

[会場] 町田市立国際版画美術館



新作「きのからだをぬけて」制作風景

●横浜市



KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 横浜市中区山下町281

Tel. 045-633-6500 伊藤文一

<https://www.kaat.jp/>

KAATキッズ・プログラム2019

『二分間の冒険』

夏休み期間に合わせて行われるKAATキッズ・プログラムのラインナップのひとつ。子どもたちに人気のファンタジー小説『二分間の冒険』を、作家・演出家の山本卓卓(範宙遊泳)が紡ぐ言葉や世界と、イラストレーター・ひらのしょうが描くアニメーションで舞台化。期間中は公演後に子どもを対象としたバックステージツアーも予定されている。

[日程] 8月17日～25日

[会場] KAAT 神奈川芸術劇場

●川崎市



川崎市岡本太郎美術館

〒214-0032 川崎市多摩区榎

形7-1-5 生田緑地内

Tel. 044-900-9898 大杉・片岡

<http://www.taromuseum.jp/>

これまでの企画展みんな見えます! 前期/岡本太郎・縄文から現代へ

開館20周年を記念し、これまで実施した約60回の企画展から代表作や資料を抽出して構成する展覧会。これまでの企画展を振り返り、今後の美術館の役割を模索することを目指す。前期展では岡本太郎の多面的な活動を代表作で紹介するほか、民族学を学び縄文土器を“再発見”した太郎のフィールドワークによる資料や写真、関わりの深い同時代の作家による作品も展示する。

[日程] 7月13日～10月14日

[会場] 川崎市岡本太郎美術館

●神奈川県大和市

やまと芸術文化ホール

〒242-0016 大和市大和南1-8-1 大和市文化創造拠点シリウス1F

Tel. 046-259-7591 竹内美保

<https://www.yamato-bunka.jp/hall/>

鈴木ユキオ×公募による青少年ダンサー『星の約束』

プロのアーティストと市民が共に大和発の作品をつくる企画「市民とつくるON STAGE」。第3弾は、中学の必修科目となったダンスを、技術ではなく自由に楽しむことに着目。コンテンポラリーダンサーの鈴木ユキオと、ダンス経験を問わず集まった7人の青少年ダンサーが、会館の愛称にちなみ“星”をテーマに新作を創作する。約2カ月の創作期間で、新たなダンスとの出会いを通じて、自分のカラダの可能性と向き合う。

[日程] 8月12日

[会場] 大和市文化創造拠点シリウス1F 芸術文化ホール サブホール

北陸・中部

●石川県金沢市

金沢芸術創造財団

〒920-0962 金沢市広坂1-9-15

Tel. 076-223-9898 中谷豪志

<https://www.kanazawa-arts.or.jp/>

金沢ティーンズミュージカル第10回公演『THE MIRROR (ザ・ミラー)』

新しい芸術文化の担い手となる若者育成のため、2008年に発足した「金沢ティーンズミュージカル」の第10回定期公演。地域の小・中・高校生を中心に構成され、夏の定期公演のほか、福祉施設や地域イベントでの上演活動を行っている。節目となる今回は、立ち上げから関わる講師4名が、これまでの上演作品を盛り込んだ作品を手掛け、普遍的テーマである「本当の幸せ」を問う。

[日程] 8月11日

[会場] 金沢市文化ホール

●長野県佐久市



〈キッズ・サーキット in SAKU〉実行委員会

〒384-0303 佐久市下小田切124-1(コスモホール内)

Tel. 0267-82-3962 市川賀朗

<https://kc-saku.com/>

〈キッズ・サーキット in 佐久〉2019

児童・青少年のための舞台芸術フェスティバルとして、国内外の優れた舞台芸術団体が佐久に集結。夏休みの3日間、市内6会場をサーキット(回路)のように巡って、家族や友達と多彩なステージが楽しめる。演劇や人形劇、サーカスなど16作品が並ぶほか、公募で集まった子どもたち約70人と創作する音楽劇『スイミー』や、ジャワの伝統的な音楽影絵の野外公演も上演される。

[日程] 8月2日～4日

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[会場] 佐久市コスモホールほか

●長野県伊那市

長野県伊那文化会館
〒396-0026 伊那市西町5776
Tel. 0265-73-8822 鈴木ゆり香
<http://www.inabun.or.jp/>

TRIAL GALLERY 2019

若手アーティストの支援を目的とした公募展。今回は長野県ゆかりの20～30歳代の3人の作家(市岡一恵、唐澤安伊歌、和全)による展覧会を実施する。8月18日には関連イベントとして、作家が描いた絵に語りをつけた紙芝居「信州駒ヶ根の昔話 早太郎物語」の上演や、二胡の生演奏とともに描く書道パフォーマンスのほか、作家自身によるギャラリートークも行う。

[日程] 8月16日～25日

[会場] 長野県伊那文化会館



和全「ヴィーナスの誕生～風・貝・木」

●名古屋

愛知県芸術劇場
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
Tel. 052-971-5609 水野学
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

THE オルガン DAY & NIGHT 2019

「短めのプログラム」「出かけやすい時間」「ワンコイン」など“手軽さ”を追求したパイプオルガンのコンサート。初日の大人向け「NIGHT」は、終演後に教養アップに繋がる「オルガン耳より講座」を実施。2日目の「DAY」は、幼児向け・子ども向けのコンサート。子ども向けコンサート終演後にはオルガンを間近に

見ることができる見学会も実施される。

[日程] 8月28日、29日

[会場] 愛知県芸術劇場

●愛知県豊田市

豊田市文化振興財団
〒471-0025 豊田市西町1-200
Tel. 0565-35-8200 伊藤智香
<https://www.t-cn.gr.jp/junior/>

豊田市ジュニアオーケストラ第34回定期演奏会 サマーコンサート

豊田市の文化活動のシンボルとして1996年に結成されたジュニアオーケストラの定期演奏会。これまでも著名な演奏家や指揮者と共演を重ねてきたが、今回は指揮界の重鎮・飯守泰次郎を招き、チャイコフスキーの組曲「白鳥の湖」op.20a(抜粋)、ドヴォルザークの交響曲第7番ニ短調op.70に挑戦する。
[日程] 8月4日
[会場] 豊田市コンサートホール

近畿

●滋賀県甲賀市

滋賀県立陶芸の森
〒529-1804 甲賀市信楽町勅旨2188-7
Tel. 0748-83-0909 鈎真一
<https://www.sccp.jp/>

特別企画 交流と実験—新時代の「やきもの」をめざして—展

滋賀県立陶芸の森では開館以来、53カ国1,200人余りのアーティストが滞在制作を行う一方、海外のレジデンス機関との連携による交換プログラムも展開し、交流を深めてきた。彼らは異国また信楽の地で何に関心をもち、どのような制作を試みたのか。本展では「交流と実験」をテーマに、その成果を紹介し、多様な現代の“やきもの”を展望する。

[日程] 6月18日～9月6日

[会場] 滋賀県立陶芸の森陶芸館

●大阪府高槻市

高槻現代劇場
〒569-0077 高槻市野見町2-33
Tel. 072-671-9999 仲隆志
<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/bunka/theater/index.html>

こども広場

劇場を親子に親しんでもらうため例年開催している子ども体験プログラム。劇場全体の事業の柱として日頃より開催している伝統芸能の演者を講師に迎えた狂言や能楽の体験、障がいの有無を問わず手や目でコミュニケーションの楽しさを体験できる「てとめでおはなししよう」など、7つのプログラムとキッズコンサートを3週間にわたって開催する。

[日程] 8月10日～24日

[会場] 高槻現代劇場

●兵庫県明石市

アワーズホール・明石市立市民会館
〒673-0883 明石市中崎1-3-1
Tel. 078-912-1234 坂田拓也
<https://akashi.hall-info.jp/>

市民創作オペラ

『イワイさまおじゃったか』

市制100周年を記念して、明石岩屋神社の伝承を基にしたオペラを30年ぶりに改訂上演。舞台は4世紀ごろの明石浦。武力をもたない明石の漁民たちは、祈りの力をもって大王の暴虐に立ち向かうとする。今回は市民公募による合唱団・児童合唱団ほか、ソリストやオーケストラ、指揮者も明石ゆかりのメンバーで上演する。

[日程] 8月11日

[会場] アワーズホール・明石市立市民会館

中国・四国

●徳島県吉野川市

NPO法人吉野川市文化協会
〒776-0010 吉野川市鴨島町

鴨島696-14

Tel. 0883-22-0015 鈴木エリ子
<http://park15.wakwak.com/~yoshi-bunka/>

あわ文化創造支援事業 「共通文化の創出～モン文化とあわ文化～」

東南アジアの山岳地域に住む少数民族モン族を招聘し、元々は文字をもたずに文化を継承してきたその営みから、地域に根ざした文化について考える。当日は、モン族の高校生による民族舞踊と音楽のほか、復活を遂げた吉野川地域の獅子舞や日本舞踊、阿波踊りを上演。同時期にそれぞれの刺繍や藍染めの展示も行い、異文化のなかにある共通文化を紹介する。

[日程] 8月4日

[会場] 吉野川市文化研修センター

九州・沖縄

●大分県大分市

iichiko総合文化センター
〒870-0029 大分市高砂町2-33 (OASISひろば21内)
Tel. 097-533-4004 工藤茂
<http://www.emo.or.jp/>

劇で恋するワークショップ

演劇に関心をもつ人の増加を図ると同時に、若い世代の施設利用者を増やしたいという思いから生まれた企画。劇作家・演出家の福田修志を講師に迎え、概ね18～39歳の未婚者を対象とした恋愛がテーマの演劇ワークショップを開催。全3回(「知り合う」編、「伝える」編、「ふれてみる」編)のワークショップで、役者と一緒に恋愛感情を表現しながら、演じることの楽しさや面白さを感じることができる。

[日程] 7月27日、28日、9月14日、15日、11月23日、24日

[会場] iichiko総合文化センター

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

東京都板橋区

板橋区立美術館 40周年記念・リニューアル オープン記念

「2019 イタリア・ボロー ニャ国際絵本原画展」



板橋区立美術館外観

●板橋区立美術館

1979年に開館した直営館。収蔵品方針、事業方針を開館後に若い学芸員と区の若い職員が徹底的に議論。当時あまり注目されていなかった江戸狩野派を中心にした古美術の収集・展示、大正から昭和の池袋モンパルナスを中心にした地元作品の収集・展示、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展の3本柱で継続的に事業を展開。「親子で楽しむ古美術」など切り口のある無料収蔵品展、興味を惹くポスターや幟、和室で屏風を展示するなどの会場演出、わかりやすくユーモアのある作品キャプションなど工夫した美術館運営を実践。

<http://www.itabashiartmuseum.jp/>

●イタリア・ボローニャ国際絵本原画展(ボローニャ展)

1964年にスタートした1,400余りの出版社が出展する世界最大級の児童書専門見本市「ボローニャ・チルドレン・ブックフェア」に伴い、児童書のためのイラストレーションを対象として67年に創設された国際的な展覧会。日本では78年から西宮市大谷記念美術館が全入選者の作品を総覧するボローニャ展を開催。板橋区立美術館は81年から巡回開催し、89年から幹事館となり、毎年5館程度の国内巡回展を行う。

◎2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
【会期】2019年6月29日～8月12日

【会場】板橋区立美術館
シンポジウム「建物から語る板橋区立美術館」(7月13日/登壇者: 山名善之、柳学、尾崎文雄、米山大三郎、坂本健、松岡希代子)や講演会、ワークショップなど関連事業多数。

*板橋区の取り組み

美術館とは別に、板橋区の施策として、「いたばし国際絵本翻訳大賞」(1994年創設)、旧小学校の一画でボローニャ展事務局からの寄贈絵本約27,000点を公開する「いたばしボローニャ子ども絵本館」(2020年開館予定の新中央図書館に絵本館併設予定)、2005年に友好都市交流協定を締結したボローニャ市との交流といった「絵本のまち板橋」に取り組む。

1979年に東京23区初の区立美術館として開館した板橋区立美術館が40周年を迎えた。同館は約14カ月の大規模改修を経て、開館直後から継続して展開する事業のひとつ「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」(児童書のためのイラストレーションの国際コンクール全入選者の作品展)で6月29日よりリニューアルオープン。他に類を見ないコレクションを形成するとともに、学芸員の工夫でユニークな運営をする美術館として知られ、地域美術館のモデルとなってきた。7月13日、展覧会の模様とリニューアルについてのシンポジウム取材するため同館を訪ねた。



板橋区(人口約58万人)は23区の北端、埼玉県境に位置する。美術館のあるエリアは1972年に整備された高島平団地や光が丘団地に挟まれた赤塚公園・光が丘公園に連なる赤塚城址跡の緑豊かなエリア。区はこの一帯を「教育と文化の森」として整備することを掲げ、市民芸術祭や古美術展示ができる施設として瓦の大屋根、白いタイル張り、2階建ての旧美術館(村田政真設計)を開設した。

美術館へは最寄りの成増駅からバスに乗り10分余り。村田建築を継承しているのでシルエットは同じだが、下半分がガラス張り、上半分が黒いガルバリウム鋼板で化粧直しされ、明るくモダンな外観に生まれ変わっていた。「素通りしないで!!」などその年のキャッチフレーズを掲げる名物の幟は「リニューアルだよ!全員集合」に変わり、新たに設けられたラウンジでは、地元作家から寄贈された古い大きな木の机を囲んで来館者が寛いでいた。

展示室は2階のみ。591m²すべてを使って、2019年の入選作家27カ国76人の作品約400点が揃いの白木の額縁で展示され、絵本を読めるコーナーもある。親子連れや若いカップル、中高年の夫婦などが楽しそうに語らいながらのぞき込んでいる。絵本原画としての表現力が問われているだけあって、1点1点に豊かな物語性があり、身近なところから出発する多様な世界観や幅広い表現に驚かされる。関連事業として、21年前からプロとプロを目指す人を対象に絵本

づくりの専門講座「夏のアトリエ」を開講し、多くの人材を輩出。小学生のときにボローニャ展を見て絵本作家を志して入選した人もいる。

86年から同館学芸員を務め、89年からボローニャ展を担当してきた現・館長代理の松岡希代子さんは、「美術館は“違う”という多様性を自然な形でポジティブに受け止めることができる場所であり、これから益々重要になる。この展覧会も多様性を重視してつくっているが、子どもたちにはそうした美術館を楽しめるベーシックな力をつけてもらいたいし、美術館を楽しめる人をつくるのが私たちのミッションだと思っている。ボローニャ展を継続していろいろな信頼関係ができ、やれることも増えてきた。その成果でもあるが、レオ・レオーニの遺族から大きなコレクションの寄贈をしたいという嬉しい申し出をいただいた」と話す。

シンポジウムでは、坂本健区長が板橋区としての取り組み^(*)について話すとともに、設計を担当した柳学さんとコンサルタントの尾崎文雄さんが古い建物を継承しながら省エネ化(断熱とLED化)とバリアフリー化を図り、バックヤードや展示の環境を改善した具体的なポイントを解説。興味深かったのは、リニューアルにあたっての検討プロセスだ。区は2013年から3年かけて、廃止、財団化、指定管理者、直営、移転の選択を含めた美術館のあり方を検討。長年積み上げてきたコレクションと展覧会のシリーズ展開を高く評価し、既存施設の大規模改修により、区の文化芸術のシンボリック施設として直営で運営することを決定。その上で、改修にあたって区と学芸員と設計者がタッグを組み、学芸員の要望と一緒に検証しながら実施設計をまとめることに1年かけたという。

「常勤学芸員3名という体制の中で、これまで積み重ねてきた事業をこれからも大切にしたい、みんなでアイデアを出し合い、それらを豊かにしながら次に繋げていきたい。出会いの場の美術館として、みんなが戻ってこられるホームのような場所になりたい」という松岡さんの言葉が、地域美術館のひとつのあり方を示しているように思った。(坪池栄子)